

ユーザー事例

Success Story

ぐるなび

コンテナ技術を活用した
PaaS基盤の構築

ぐるなびの成長を支える新しい開発インフラに OpenShiftを採用。開発のセルフサービス化により、 サービスのリリーススピードを大幅に向上

飲食店情報サイトの老舗「ぐるなび」を運営するぐるなびが、アプリケーション開発のセルフサービス化に乗り出した。今後の事業の成長ドライバーとして、強固で柔軟なシステム基盤構築を目指す「ぐるなびマルチクラウドプラットフォーム構想」の一環で、レッドハットのコンサルティングサービスを利用した新しいシステム基盤を立案。コンテナ技術を活用した開発・本番環境として、「Red Hat OpenShift Container Platform」ベースのPaaS基盤を整備した。主力の飲食店支援事業のみならず、食関連産業の発展を後押しする新規事業の創出と拡大を加速するため、さらなるサービス開発力の向上を図る。



ぐるなび

背景

ぐるなびの成長戦略のカギを握る 新規事業創出

ぐるなびは、個人のインターネット普及率がまだ10%にも満たなかった1996年に、業界に先駆けてサービスを開始した飲食店情報サイトのパイオニアだ。現在では、有料加盟店舗数60,123店、月間ユニークユーザー数6,500万人、登録会員数1,586万人、売上高約362億円の巨大メディアに成長した(*)。2016年にサービス開始20年の節目を迎えたぐるなびは、今後のさらなる成長戦略として、中核事業の飲食店支援の強化に加え、新規事業の領域拡大の方向性を打ち出している。

※株式会社ぐるなび 2018年3月期決算説明資料より

その成長戦略の大きなカギを握るのが新規事業だ。主力の飲食店支援事業の拡大はもとより、新たなサービスの創出を加速することで、中長期的な成長の実現を目指している。すでに、ビジネスシーンでの手土産選びに精通した企業秘書による商品の品評会や、そこで高評価を受けた商品情報の紹介とeコマースにも対応したサイト「接待の手土産」など外食以外の食関連サービスや、ミシュランガイドに掲載された情報の閲覧・検索のほか予約代行なども提供する「クラブミシュラン」などさまざまなサイトを展開しており、今後も新しいサービスが続々とリリースされる予定だ。

課題

開発のスピードアップと セルフサービス化の実現

ぐるなびの成長をIT基盤から下支えし、テクノロジーの力で貢献する目的で策定されたのが、2016年

9月にスタートした「ぐるなびマルチクラウドプラットフォーム構想」だ。プロジェクトの中心的役割を担った企画開発本部 開発部門 インフラストラクチャサービスセクション クラウドアーキテクチャグループの小川保法氏は、次のように説明する。「この構想は3つの柱で成り立っています。一つは“最適選択”。プライベートクラウドとパブリッククラウドを使い分けて、性能とコストを最適化できる環境を構築します。もう一つは“開発スピードアップ”。開発に必要なリソースを開発者が自由に選択・活用できる基盤を整えます。これらの環境を、“最新テクノロジーの取り込み”によって常に進化させ、新しいサービスを次々に生み出していけるプラットフォームを作るのが本構想の狙いです」

ぐるなびマルチクラウドプラットフォーム構想の実現に向けて最初に取り組んだのが、開発スピードを向上させる新しい開発プラットフォームとしてのプライベートクラウドの構築だ。ぐるなびのサービス開発・運用を担う開発部門は、インフラ部隊、開発部隊を合わせて250人あまりの技術者が従事しており、その技術力には定評がある。一方で、サーバー数の増大などによって運用に人手と工数がかかるようになり、いざ新たな開発に取り組もうという時に必要なリソースがすぐに用意できないといった課題も抱えていた。そこで、開発者自身の裁量でインフラのコントロールを可能にする「開発のセルフサービス化」を実現して、新しいビジネスのアイデアを素早くアプリケーションの形でできる環境の構築を急ぐことになったのである。

Red Hat コンサルティングの活用

構想立案段階からエキスパートが プロジェクトに参画

ぐるなびでは、このプロジェクトがスタートした2016年9月より、社内ヒアリングやToBeモデル(次

期システム構想)の立案などを進めていたが、2017年1月からレッドハットがプロジェクト支援の立場で参画することになる。外部のコンサルティングを利用して、検討内容の充実と検討期間の短縮を図り、早期に新しい開発体制を整えるのが目的だ。プロジェクトの初期段階からレッドハットのエキスパートがメンバーに入り、約3カ月にわたって社内ヒアリングへの協力、ToBeモデル設定のサポート、製品や技術に関するワークショップやハンズオントレーニングの実施、随時のアドバイスを提供した。

現場の開発チームから相当数の課題を抽出して整理し、機能要件を策定した結果、コンテナを活用したPaaS基盤が新しい開発プラットフォームとして最適という結論に至った。コンテナを使えばOSなどインフラ部分のリソースからアプリケーションまでをベースイメージとしてテンプレート化できるので、開発者はコンテナ単位で自由に開発に取り組める。「当初はIaaSの構築も考えていましたが、開発者がインフラのことを気にせずに開発に集中できる環境を整備するには、コンテナを活用したPaaS基盤の構築が必要だという結論に、レッドハットのコンサルティングを通じて自然にたどり着きました」(小川氏)

OpenShiftを選んだ決め手

オープンソースコミュニティへの 高い貢献度と運用管理の負荷軽減

新しいPaaS基盤のベースとなる製品には、「Red Hat OpenShift Container Platform(以下OpenShift)」が採用された。コンテナ開発と展開を自動化するDockerや、コンテナの管理を容易にするオーケストレーションツールのKubernetesなどを企業システム向けに最適化・機能拡張した統合プラットフォームだ。ぐるなびでは一部の開発環境でDocker

コンテナ技術を活用したPaaS基盤の構築

01 背景

ぐるなびの成長戦略のカギを握る新規事業創出

- 飲食店支援強化と新規事業拡大を明確化した成長戦略
- 新規事業を具体化する新しいサービスを次々と投入

02 課題

開発のスピードアップとセルフサービス化の実現

- 開発スピードを向上させる新しいプラットフォームの導入
- 開発者が必要なリソースをコントロールできるセルフサービス化

03 Red Hat コンサルティングの活用

構想立案段階からエキスパートがプロジェクトに参画

- 構想立案や社内ヒアリングなど初期段階からレッドハットのコンサルタントが参加
- コンテナ技術習得のためのワークショップやハンズオントレーニングを実施



Red Hat

を利用していただけ、その点でOpenShiftの採用は自然な流れだったが、コンテナ基盤の本番環境に必要な機能を提供する「Kubernetesのコントリビューターとしてレッドハットが極めて高いポジションにいる」（小川氏）ことも評価され、採用に至った。

また、コンテナ導入後の運用管理の負荷軽減も採用理由の一つだ。ぐるなびでは従来、仮想化環境の設定から環境提供まで、必要なリソースの準備に数カ月かかることもあった。しかしOpenShiftの導入により、Webサーバーやアプリケーションサーバーも含めベースイメージとしてテンプレート化することでセルフサービス化を実現。基本環境を数分程度で設定できるようになった。プログラミング言語やプラグインも事前にコンテナに含めれば、これまで個々に行っていた更新作業が一括で完了する。こうした運用管理面のメリットもOpenShiftが評価された点だ。



株式会社ぐるなび
企画開発本部 開発部門
インフラストラクチャサービスセクション
クラウドアーキテクトグループ

小川 保法 氏



株式会社ぐるなび
企画開発本部 開発部門
技術・開発推進セクション
アーキテクトグループ シニアリーダー

湯瀬 淳也 氏



株式会社ぐるなび
企画開発本部 開発部門
フロントエンド開発グループ

竹原 駿平 氏

OpenShiftを導入した効果

サービスリリースまでの時間短縮と 開発者のチャレンジ意識の向上

2017年8月から設計・開発、PoC(概念検証)を含む各種テストなどを実施し、2018年3月にコンテナ技術を活用したPaaS基盤が稼働を開始した。セルフサービス化が可能な新たな開発・本番環境を実現した、待望のプライベートクラウドである。早速この環境を適用して開発に取り組んだのは、「接待の手土産」や「クラブミシュラン」などを手がける高級店サービス開発のチームだ。

新しいPaaS基盤のメリットについて、当時開発チームに所属していた企画開発本部 開発部門 技術・開発推進セクション アーキテクトグループ シニアリーダーの湯瀬淳也氏は次のように話している。

「新しい環境のおかげでインフラ準備の待ち時間がなくなったので、ビジネスのアイデアを素早くアプリケーションに展開できるようになり、サービスリリースまでの時間が短縮されました。コンテナを活用した開発に全てを移行したわけではありませんが、今のところ全体としてインフラ準備の待機時間を70%ほど削減できています」

同じく開発チームのメンバーで、現在は企画開発本部 開発部門 フロントエンド開発グループに所属する竹原駿平氏は、「新しいPaaS基盤は、開発者のチャレンジを後押ししてくれます。アプリケーションだけでなく、サイトのパフォーマンス向上なども含めてサービス全体としてコントロールできるようになるので、自分たちの手でもっといいものにしていくという積極的な気持ちが強くなったと感じます」と

開発に向き合う意識の変化を語った。

今後の展望/レッドハットへの期待

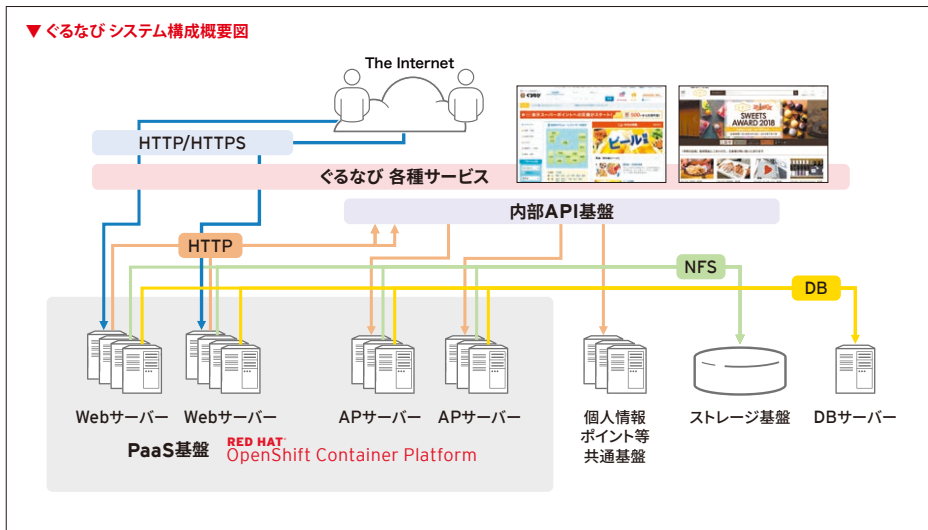
ますます競争力あるサービス開発を 実現し、成長戦略に貢献

ぐるなびマルチクラウドプラットフォーム構想の最初の取り組みとして完成した、新しいPaaS基盤。今後は、高級店サービス開発などでの成功事例の紹介や、実際にOpenShiftの使い方を体験できる社内トレーニングなどの活動を通じて、徐々に開発するサービスを増やし、PaaS基盤の活用を本格化したい構えだ。すでに、使ってみたいという開発チームからの具体的な相談も受けているという。

今後の展望について、小川氏は次のように話している。「今回構築したPaaS基盤は、ぐるなびマルチクラウドプラットフォーム構想の中核をなすものです。今後はパブリッククラウドとの連携にも取り組んでいこうと考えています。コンテナ技術の活用をさらに先に進めたマイクロサービス化や開発コストの可視化も視野に入れ、ますます競争力のあるサービス開発を実現させることで、当社の成長戦略に貢献したいと考えています」

また、レッドハットに対しては、「今回のコンサルティングサービスについては、高く評価しています。製品や技術の提供だけでなく構想立案の段階から参画してもらい、実際に社内ヒアリングを行なった際は、第三者の目として大きな力が働き、スムーズにプロジェクトを進めることができました。」

我々には、解決しなければならないビジネスの課題があります。これからもOSSの技術力を最大限に活用しながらビジネスの課題に取り組めるパートナーとして、ノウハウとスキルを提供してもらいたいと思います(小川氏)と期待を寄せた。



04 OpenShiftを選んだ決め手

オープンソースコミュニティへの高い貢献度と運用管理の負荷軽減

- Kubernetesのコントリビューターとしてのレッドハットの高い評価
- 開発のセルフサービス化による基本環境の準備時間短縮

05 OpenShiftを導入した効果

サービスリリースまでの時間短縮と開発者のチャレンジ意識の向上

- サービス開発のためのインフラ準備の待機時間が全体で70%削減
- 裁量拡大による開発者の積極性と意識の向上

06 今後の展望/レッドハットへの期待

ますます競争力のあるサービス開発を実現し、成長戦略に貢献

- マイクロサービス化や開発コスト可視化も視野に入れたPaaS基盤活用のさらなる進化
- ビジネスの課題に取り組めるパートナーとしてのレッドハットの役割に期待